

令和 8 年度第 1 回おうめ観光戦略推進懇談会会議録（概要）

1 日時

令和 8 年 8 月 3 日（火）午後 2 時 0 0 分

2 会場

市役所議会棟 3 階大会議室

3 出席委員

千葉 千枝子 委員（会長）、竹内 俊夫 委員（副会長）、
本橋 大輔 委員、嶋田 委員、林 英夫 委員、
小澤 順一郎 委員、千保木 三紀子 委員、榎戸 敏文 委員

4 欠席委員

なし

5 傍聴者

3 名

6 議題

(1) あいさつ

(2) 議題

ア 観光客および市民アンケート調査結果の分析について

イ 令和 8 年度観光施策の見直しについて

ウ 「おうめ観光戦略 2024-2028」の見直し検討について

エ その他

7 配布資料

資料 1 観光客および市民アンケート調査結果分析について

参考資料 1 観光客を対象としたアンケート調査結果

参考資料 2 観光客を対象としたアンケート調査結果分析

参考資料 3 市民を対象としたアンケート調査

参考資料 4 市民を対象としたアンケート調査結果分析

資料 2 令和 8 年度観光施策の見直しについて

資料 3 おうめ観光戦略 2024-2028

8 会議録（概要）

発言者	発言内容
1 あいさつ (省略)	
2 議題（１）観光客および市民アンケート調査結果の分析について 観光客を対象としたアンケート調査結果について (資料１、参考資料１、参考資料２)	
事務局	【観光客向けアンケート調査結果の分析】 「一人当たりの観光消費額」について、 ・若い年代ほど消費額が大きい ・年代別による訪問目的または施設の傾向として、若い世代はアクティビティや宿坊など比較的単価が高い施設を利用する割合が多い傾向がある一方で、年配層は散策やお土産販売施設などの利用が多い傾向にある。 この結果により、一人当たりの観光消費額の改善には、自然や街並み散策に付加価値を付けて体験消費へ転換していくことが効果的と分析。 「観光客満足度」について、 ・年代別に比較すると、男性は３０～６０代、女性は３０～５０代の満足度が低い傾向にあった。 ・それらの年代が青梅を訪れている主な目的は「登山・ハイキング」、「食事・地元料理を楽しむ」および「街並み散策」などが上げられていた。 これらの満足度を向上させる施策を検討することが、全体的な満足度向上へ効果的と分析。 「持続可能な観光に対する認知度」について、 ・年代別にみると比較的若い世代に認知度がある一方で、６０代、７０代以上の世代では極端に認知度が低い結果。 持続可能な観光に関する発信はイベントポスターやリーフレットへ「JSTS-D」マークを掲載する程度のみであることから、今後は具体的な取組みを市民、観光業者、観光客へ分か

	りやすい形で発信し、「青梅らしい持続可能な観光」のブランド形成をしていくことが必要と考える。 【市民向けアンケート調査結果の分析】 「市民の住んでいる満足度」について、 ・年代別、居住地区別、居住年数別での傾向に特徴のある差はなかった。 ・満足度を評価するための基準は「自然環境」を重視している割合が突出して多く、次いで「交通の便」や「治安の良し悪し」を重視している傾向があった。 ・評価７以下が評価８以上を上回っているのは「交通の便」、「商業施設の数」、「文化施設の数」、「レジャー施設の数」、「その他」。 以上より、回答数が多かった「自然環境」、評価７以下としている理由が多い「交通の便」および「商業施設の数」などに絞った施策を進めることが市民の住んでいる満足度を上げることに効果があると分析。 「市民の観光おすすめ度」について、 ・「年代別」、「居住地区別」、「居住年数別」での傾向に特徴がある差はなかった。 ・おすすめ度を評価するための基準は「自然環境」を重視している割合が多く、次いで「交通の便」や「レジャー施設の数」。 よって「自然環境」、「交通の便」および「レジャー施設の数」などに絞った施策を進めることが観光おすすめ度を上げることに効果があると分析。
【質疑応答】	
委員	街並み散策への付加価値とは具体的にどのようなことを考えているか。
事務局	癒しの道、ハイキングコースの整備、多くの利用者に楽しく満足いただけるように考えている。
委員	最近、枯木の倒木に関するニュースが多いが、青梅市の予算

	を見ても枯木伐採に予算が多く費やされているように見受けられる。付加価値を付ける前に安全への配慮が必要であることは理解する。
委員	自然が多いがゆえに熊の心配をしている声を多く聞く。 青梅は安全なんだというメッセージを流すことが大事ではないか。 御嶽駅前施設の集客力が弱いように感じている。例えば河鹿園をうまく利用して積極的にPRをすると良いのではないか。個人の所有物なので難しいと思うが、もったいないと感じる。
委員	女性20代の消費額がとても大きいのでこの層がキーになりそうだが、どんな方が回答されているか分かっているか。
事務局	回答者の詳細までは分かっていない。例えば群青グルメイイベントは20～30代女性をターゲットにしているが、それがどの程度の影響を与えているか把握できていない。
委員	観光客アンケート結果を見て、感覚が違う。青梅も新しい観光施設が作られてしたりして、若い人の間では青梅が熱いという話も聞いていた。 どのような調査を行っているのか、また見直すことは考えている。
事務局	アンケート会社のモニターさんからアンケートをとっている。回答者は無作為なので、どの程度正確な情報なのかは分からない。8年度のアンケートは見直したいと考えてはいるが、よいアンケート方法が見つからなければ令和8年度も同様の手法になってしまう可能性があることはご了承いただきたい。
2 議題（2）令和8年度観光施策の見直しについて （資料2）	
事務局	「基本戦略1 持続可能な観光地づくりの推進」の「施策2 国際認証取得・同水準への適合」について、 国際認証に代わる青梅市の持続可能な観光の取組みを観光

	客へ PR する方法として、すでにある程度の認知度を確立している「OmeBlue」ロゴの価値を更に高める仕組みとして、「OmeBlue Plus」（仮称）を検討したいと考えている。 「OmeBlue Plus」は、環境への配慮や地域資源の活用、地域との連携など、持続可能な観光につながる取組を実践している事業者・団体に申請していただき、一定の基準を満たした場合に利用できる付加ロゴ。 事業者にとっては自らの取組を PR する機会となり、観光客にとっては「このお店や施設を利用することが、青梅の自然や文化、地域応援をすることになる」という分かりやすい目印になると期待する。 行政が一方的に認証するだけでなく、地域の皆さまの自主的な取組を後押しし、その魅力を「見える化」する仕組みとすることで、市民・事業者・行政が一体となった持続可能な観光地域づくりを進めていきたいと考えている。 「基本戦略 4 観光資源の高付加価値化による収益力の向上」について、 「施策 2 新たな観光資源の発掘」におけるファクトリーツーリズムの伴奏支援事業では、一般社団法人こーよ青梅が主体となって市内工場見学や作業体験を行う方向で検証を進めることで青梅市と協議が完了しているため、青梅市としては、その方針をサポートしていく立ち位置で本事業を進めてまいりたいと考えている。
【質疑応答】	
委員	OmeBlue の認知度がとても高いアンケート結果もあるので、新しいロゴを作るより既存の OmeBlue を発展させて利用するという発想は良いと思うので、異論なし。既存の OmeBlue や、OmeBluePlus について登録基準があれば教えて欲しい。
事務局	今の OmeBlue は使用規定に反しなければ自由に使える。 OmeBluePlus については一定の基準をクリアした事業者や団体へ使用してもらうことを考えている。できれば国際認

	証に即した基準が理想的だが、あまりハードルが高くても普及に繋がらないので、青梅市なりの基準を作っていきたいと考えている。
委員	JSTS-D についてはすでに取得しているか。
事務局	青梅市としては取得している。
委員	湘南の道の駅では湘南ブルーとしてグッズが販売していた。OmeBlue を更に認知度を上げるためには道の駅などを作って周知を広めることを検討して欲しい。 今度一中が一小に統合されるという話があるようだが、空いた土地を利用して道の駅を作ってはどうか？
委員	OmeBluePlus が出来た場合、現在の OmeBlue はどうなるのか。
事務局	OmeBlue と OmeBluePlus は両立して使用していく。
委員	そうすると、今の OmeBlue の価値はどうなってしまうのか。
事務局	OmeBlue は現在シンボリックな感じで使っていると思うので、それは継続していきたい。そのうえでもう少し厳格な基準をクリアした事業者や団体に使っていただくのが OmeBluePlus になると考えている。上下関係ではなく、使い方を増やすというイメージ。
委員	OmeBlue を自由に使っている小規模事業主さんはそれが信頼の証みたいな感じで助かっている部分もあると思っている。意図的ではないにしても、OmeBluePlus ができることで自然と OmeBlue が格下に見られてしまうようなことになって、事業に悪い影響がでないか心配な部分もあるので、今までとおりメリットがると事業者が感じれるような運営をお願いしたい。
委員	こーよ青梅をサポートするとは具体的にどのような事業を計画しているのか。
事務局	こーよ青梅でファクトリーツーリズムを利用したツアーが出来ないか検討しているという話があったので、まずはその部分で連携なり協力して事業を進めていきたいと考え

	ている。 現在はファクトリーツーリズムがメイン。
委員	ファクトリーツーリズムを青梅市の目玉にすることを考えたとき、こーよ青梅に任せるというスタンスよりも、市がしっかりバックアップなり主導していく体制を作っておくと、市町村会からの視察・研修の場で PR することも可能になる。
事務局	こーよ青梅とどのような形で協力体制を組んでいくかはこれからの協議による。今後、青梅市で主導まではできるか分からないが、出来る限りサポートしていく。最終的には事業者さんが自走できるような体制にしたいと考えている。
委員	以前は青梅マラソンがある青梅という認識が浸透しているイメージがあったが、今は OmeBlue の認識が広まっているところで、OmeBlue があるから青梅に行こうと考えてもらえるような周知をしていきたい。
事務局	OmeBlue をコンセプトにしたイベントとして、今年は群青紀行を行っている。これを発端に OmeBlue を知ってもらって再来訪してもらうことを目的にしているが、他にも OmeBlue を広げるよいアイデアがあればぜひ共有したい。
委員	一人当たりの消費額が年々減っているのは課題。青梅市全体で見ても資金の流入より流出の方が多いのが現状。OmeBlue の認知度を上げることで外から興味をもって来訪してもらうことが大事だと思う。
事務局	職員がつくる名刺は今まで実費負担だった。今年度から名刺を公費負担とした。ただし税金ではなくボートレースの収益から出すという意味で名刺の裏側にボートレースの印刷をしている。合わせて OmeBlue の印刷もしており、職員一人一人が広告塔となって OmeBlue を周知する活動にも取り組み始めている。
委員	熊の影響で山に行く人が 3 割りくらい減っていると言われている。ハイキングコースを整備しても熊の影響で結局利

	用者が減ってしまうことのないよう、利用者への働きかけが必要と思う。東京都でも熊対策を行っていくとのことなので、それにうまくのっていただければと思う。
事務局	議会の一般質問でも熊の話題はでている。今年も数件の目撃情報はあつた。そういう情報も過度に心配を助長するような情報発信はせず、うまく情報発信していきたい。
2 議題（3）「おうめ観光戦略 2024-2028」の見直し検討について （資料3）	
事務局	特になし
委員	東京都で緑の割合を観測していく活動やインバウンドの動向について観測していく活動もしている。東京都は色々なところへ力を入れようとしている。 そこでは東京都に奥多摩などにそんな場所があることを知らない人が多かった。まずはこういった方達に青梅の自然なりをPRすることが大事だと感じている。
委員	都会に住んでいる方は癒しを求めて来る方が多いと思う。特に女性。ハーブガーデンや園芸を営んでいる方に癒しの花みたいものを整備してもらいたい。 岩蔵温泉にハーブ園みたいなもの、安くて何回も足を運べるような施設が良いかも。
委員	以前聞いた講演では都心から青梅線で行くとしたら昭島までという話があつた。理由は昭和記念公園があることで、自然を求めて西側へ来る方が多いとのこと。そして昭和記念公園では物足りない人が青梅、奥多摩へ向かう。 東京都が自然公園プロジェクトをしていた。 自然を活かした大きな公園を整備するという概念が過去にあつた、今はどうしてるか分からない。 地方で言われる「豊かな自然」に比べて青梅の自然が劣るとは思っていない。であれば都心から近い自然のほうが圧倒的に有利なので、JRなどと協力してPRをするのが有効ではないか。

委員	青梅観光ガイドをデジタル化することやインフルエンサーに協力してもらうとか、考えても良いかも。
委員	宿泊施設は稼働率が結構よいと聞いている。ただし、泊まる場所が少ないのが致命的。岩蔵はあまり宿泊がきていない。去年は岩蔵温泉を利用したツアーを行って好評だったが、今年は旅行会社によるツアーを計画したが、最小催行人数に足らず開催できなかった。まだまだ青梅の認知度が低いと感じた。 市内の事業者さんと連携して事業を進めていくことが大事。 ファクトリーツーリズムにも可能性を感じている。企業研修で来てもらい、そこからプライベートでも来てもらうことへ発展して行くことを目的にしたい。
委員	OmeBlue のインスタグラムも一万人以上のフォロワーがいれば十分な発信源になるので、今後は持続可能な観光を PR していくことを強く発信した方が良い。 おうめ観光戦略 2024-2028 の数値目標の中に、例えば OmeBluePlus 登録者数を設定して追加しても、おもしろいのではないか。
委員	青梅以西の路線としてアドベンチャーラインという名称が定着してきて、認知度を広げるという点で一つの成功例といえる。ただ、電車から景色を見ると植林が多く多摩川が見えないところが多い。奥多摩では道路が凍るところの木を伐採すると補助金がでる制度があったと聞いたことがある。青梅でも景観を向上させるために木の伐採をすると補助が出るような制度があると、もしかしたら協力してくれる方がいるかもしれない。
委員	青梅はいろいろと恵まれているところがあるが、うまく伝えられていないと感じる。 若い人への PR がうまくいっていないのでは。
委員	ファクトリーツーリズムを推進していこうとした時、DMO や

	青梅市観光協会などに第３種旅行業の登録などを進めていく必要がある。 JSTS-Dの推進について、釜石市の「かまいしDMC」は観光庁長官賞を過去に受賞したが、その後、どのように持続可能としているかなどの事例を研究しながら青梅市の方向性に活かしていくことも重要かと思う。
事務局	青梅市でのふるさと納税を少しモノ消費からコト消費へシフトしていつている。今あるモノ消費も残していきながら、体験できるゴルフ、フィッシング、宿泊など、青梅の自然で還元できるものは活かしていきたい。
２ 議題（４）その他	
事務局	特になし
３ 次回の懇談会日程について	
事務局	次回は、１１月～１２月頃の開催を予定している。日程調整についてのメールを後日お送りする。
４ その他	
事務局	特になし